

《本号の表紙絵》

日本眼科学会選定

『和・羅・獨・佛・英對譯 眼科術語集』中村卯吉商店，昭和6年

他の分野では用語の整理がすすめられるなか，昭和初期において日本語の医学用語には多くの不統一があった。個人編纂の用語集などはそれ以前にも出版されていたが，学会主導で用語を統一する試みはなされていなかった。

日本眼科学会は日本の医学系学会のなかで，学会主導での用語統一に最初に着手した。昭和3年に原案作成の委員を選出し，昭和5年に術語原案を日本眼科学会会員に配布し意見を募った。そうして決定された最終原案が本書に収録されている。

本書の出版は医学関連の他学会での用語に少なからぬ影響を与えた。日本解剖学会は，明治26年の設立当初より統一的な用語の整備を企図していたが，長らく果たせずにいた。昭和10年代になって解剖学会内あるいは国語愛護同盟のような学会外からの要望に後押しされ，用語委員会の設置や用語案の配布・意見収集というプロセスを経て，ようやく昭和19年に解剖学用語として制定されている。眼科術語の制定の迅速さは他学会にプレッシャーを与え，制定のプロセスに関しても大いに参考にされたと推測される。

本書の成立はまさに学会主導による用語の統一に先鞭をつけるものであった。

(澤井 直)